

2020年度開智国際大学卒業式 学長式辞(抜粋)

キャンパスの桜が、時を得顔に装う春の日に、2020年度の卒業式を執り行うことができますこと、大変光栄に、嬉しく存じます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況の中、昨年度につづき今年度も、来賓・保護者の皆様にはご列席いただけませんが、理事の方々は、お祝いに駆け付けてくださいました。有難うございます。

卒業される皆さんを今日まで、物心両面で支えてこられた保護者の皆様の、この会場で共に卒業を祝いたい、との願いにお応えできないことは心残りです。保護者の皆様には、ここに改めまして、ご息女・ご子息のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、壇上に私の姿が見えないことに「どうしたのだろう」といぶかしく思われていることでしょう。実は、私は、約2週間前の3月3日に、救急車で病院に搬送されました。大事には至りませんでした。今もまだ入院しています。日常生活は今まで通りに不自由なくできるのですが、左顔面に残った麻痺のため、目下、麻痺を直すリハビリを受けています。道のりは厳しいですが、何とか以前の発音が取り戻せるように、日々、励んでいるところです。

皆さんが入学されてから4年間、毎日あいさつを交わし、喜びも悲しみも分かち合ってきましたのに、卒業式という記念すべき晴れの日に、お祝いの言葉を述べることも、笑顔で皆さんをお送りすることも叶わず、大変残念です。申し訳なく、心からお詫びいたします。皆さんには、私の言葉で、お祝いのメッセージをお届けしたく、病室でこの式辞を書いています。聞いてください。

改めまして、ご卒業おめでとう!

教育学部を新設し、リベラルアーツ学部を国際教養学部改編した2017年4月に、皆さんは、教育学部、国際教養学部の一期生として本学に入学されました。2000年に四年制大学を設立して以来、本学にとって初めての2学部制です。先生方を新たに迎え、学びの枠も広がり、大学は大きく生まれ変わりました。2015年に大学名を「開智国際大学」とし、留学生を積極的に迎え、キャンパスのグローバル化を進めてきました。現在は、17カ国からの学生が在籍し、国籍、言語、文化、性別や社会経験など多様なバックグラウンドをもつ学生が学び合う大学となりました。

2学部制になったことで、大学のダイバーシティ、多様化はさらに進展し、キャンパスはいっそう活性化しています。皆さんは、一期生としての自覚をもって、4年間勉学に励み、率先垂範して、各学部の形を作り上げてくださいました。学修面だけでなく、学生会活動や柏学祭、そして部活のリーダーとして、大学生活を盛り上げ、そして充実させるためにも、その姿勢は貫かれ、多くの時間とエネルギーを捧げられました。オープンキャンパスの運営にも工夫を凝らして、高校生に大学の

魅力を熱く語って下さいましたね。学生にここまで信頼されていることに誇りを感じるとともに、大学の更なる発展に頑張ろう、と私自身を鼓舞したものです。

また、柏市をはじめとする地域の方々と大学との懸け橋としても貢献されました。私は、このような皆さんの生き生きとした活躍ぶりを、ワクワクしながら応援してまいりました。

熱意ある先生方のご指導に支えられて、様々なことに挑戦していらっしゃるお姿を、私は、どれほど誇らしく思ったことでしょう。教員採用試験や公務員試験、そしてコロナ禍の中、苦戦しながらも就職活動に期待以上の結果を出されたことは、私の大きな誇りでもあります。

入学時に比べて大学が急速に発展していることを、皆さんご自身がいちばん感じておられるのではないのでしょうか。これは一期生の皆さんの様々な形での貢献の賜物です。皆さん、本当にありがとう。

さて、皆さんは、今までは学生として、守られた世界で自由に生きてこられました。これからは社会人として一步を踏み出されます。自分の思い通りにはならない状況に置かれることもあるでしょう。仕事をするという事は、組織人としての自覚のもとに、責任をもった行動を約束することです。理不尽と思われることを要求されることもあるでしょう。自分の主義主張と異なる行動を求められることもあるかもしれません。社会人としてやりがいを感じ、自分の力に自信を持ち、さらに高いところを目指そうと挑戦意欲に燃えることもあれば、誠意を尽くして一生懸命仕事をしていても周りの人たちに理解されず、周囲との摩擦の中で自分を見失ってしまうことがあるかもしれません。

そういう時に、思い出してもらいたい言葉があります。『置かれた場所で咲きなさい』という本をご存知でしょうか？ 2012年に発売され、ベストセラーになった、今は亡き渡辺和子先生の著書です。1936年2月26日に、渡辺先生は、当時教育総監だったお父様が、自宅で、40発以上の銃弾を受けて、一瞬のうちに肉体を打ち碎かれるのを目の当たりにしてしまったのです。2・26事件の犠牲になられたのです。当時、先生はまだ9歳の幼い少女でした。人間不信になるような幼いころの体験が、先生の「生きる」ことを考える原点になっていることを知り、心が揺さぶられる思いでした。本書の中には、次のような言葉があります。

「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方なのです。置かれたところで咲いてください」「結婚しても、就職しても、子育てをしても、「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次に出てきます。そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。」

私自身、これまでの人生で、今回ほど、「どうしても咲けない時もあります」、この言葉が胸に刺さったことはありません。どんな時も「咲く」努力をしてきましたし、いままでは「咲く」努力ができて

いると思っていましたから。病院に搬送され、集中治療室の天井を眺めながら、一瞬のうちに人生が変わってしまったことを嘆いていました。こんな状況でも卒業式のことを気にして、呂律の回らない口を動かして、「花を咲かせる」ことに力を振り絞ろうと必死になっていました。そんな中、渡辺先生のこの言葉を思い出し、「今はどんなに頑張っても咲けない時、焦らず根を張って行こう」、そう心に決めました。失ったものを数えることをやめ、できることを数えることにしました。そうすると、気持ちがスーッと楽になりました。

仕事がうまくいかない、努力しているのに周りに理解してもらえない、こんな時、私たちは「上司が悪い、会社が悪い、コロナのせいだ」などと自分以外に非を探し、責任を転嫁してしまいがちです。実際に、問題の本質が会社や上司・同僚にあることもあるでしょう。しかし、他責を追求しても、それでは問題は解決しません。現実が変わらないのなら、問題や悩みに対する心の持ちようを変えてみましょう。まずは、自分から変わることに！そこから始めましょう。

暗いトンネルに入ってしまう悶々とする日もあるでしょう。そんな時には、渡辺先生の優しい思いやりに満ちた言葉を思い出してください。「どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。」

本日、卒業の日を迎えられたのは、ご両親をはじめとするご家族の皆様のお支えがあったからこそです。お家に帰られたら、ご家族の皆様へ感謝の気持ちを伝えましょう。心で思っても、それでは通じません。「ありがとうございました」と言葉ではっきり伝えましょう。「ありがとう」は、これからの人生にとって忘れてはならないキーワードです。

教職員一同、いつでも、皆さんをお待ちしております。愚痴をこぼしにきてください。もちろん、褒められました、表彰されました、結婚しました、という嬉しい話も大歓迎です。そして、元気になった私に会いに来てください。開智国際大学は、皆さんの第二の故郷です。

本学の卒業生として誇りをもって活動してもらえるよう、私たち教職員は、皆さんの後輩とともに、一丸となって、さらに良い大学を目指して努力を続けていきます。私たちも頑張ります。皆さんもお体に気をつけて、それぞれの場で、大きく美しく咲いてください。

皆さんのご卒業と社会人としての門出を祝福し、式辞といたします。

本日は真におめでとうございませう。そして、皆さん、本当にありがとう。

2021年3月19日

学長 北垣 日出子

代読 副学長 柴原宜幸